犬岩清掃・見学会

藤身隆雄

6月18日（日）午前9時より、銚子ジオパーク推進市民の会とナルク銚子合同で、犬岩周辺の清掃を行いました。当日はいつ降ってきてもおかしくないような雲におおわれていました。

参加者は39名を数え、小学生や、大学生もゴミ拾いに参加していました。最近は定期的な清掃で、ゴミは少なくなりつつあります。

午前10時からは無料の現地見学会を実施しました。千葉科学大の銚子学の授業の一環で学生48名が参加、いくつかのグループに分かれて、認定ガイドの説明を熱心に聞いていました。途中で心配していた雨が降ってきましたが、見学会は継続しました。見学会には千葉科学大生の他に千葉県内外から5名の方がお見えになりました。

次回は7月16日（日）午前9時より屏風ヶ浦を予定しています。ご協力よろしくお願いします。

銚子空襲 ～軍事機密だった気象情報～

宮内　秀

グータラ隠居：おはよう～

熊：おはよう、熊さん。

熊：１９４５（昭和20）年、銚子も米軍機によって空襲されたんだって？　覚えているかね。

隠居：72年も前の話だよ、わたしゃ立派な戦後派、団塊世代だよ（笑）。銚子の街は3回空襲を受けたようだが、7月19日の深夜から20日未明にかけての空襲が最大の被害で、銚子測候所（現在の銚子地方気象台）も全焼した。

熊：えっ？　測候所が空襲されて全焼したの？

隠居：今でも戦争の際は、気象状況の把握は欠かせない情報であり、敵方には知られたくない情報でもあるんだ。例えば湾岸戦争の際は、中東方面からの気象観測報がパッタリと途絶え、中東は一時期気象データーの空白域となったこともある。空襲当時の測候所は戦争遂行上、今以上に重要な施設だったんだろうね、きっと。

熊：なるほど。

隠居：太平洋戦争が始まった１９４１（昭和16）年12月8日から終戦の１９４５（昭和20）年8月下旬まで、天気予報や台風情報などは「軍事機密」として扱われ、国民に知らされることはなかった。このため戦時中に襲来した数回の台風で、なんらの情報も知らないままに多くの国民が災禍に巻き込まれ、合わせて約２５００人もの犠牲者が出たんだよ。

熊：そうか～～、平和な今、気象情報を多様な手段で、タイムリーに、しかも自由に知ることができる。気象情報は「平和のシンボル」なんだね。

隠居：そうなんだよ。戦時中の悲しい歴史を顧みれば、最近、急速に発達する低気圧のことを「爆弾低気圧」、局所的な大雨を「ゲリラ豪雨」と呼んでいる気象予報士も居るが、「爆弾」や「ゲリラ」といった戦争用語は気象情報に似つかわしくないね。

熊：そうだね、平和のシンボルらしい言い方をしてほしいね。

（補足）

銚子空襲の5時間前の天気図（昭和20年7月19日18時）を眺めてみますと、台風が九州に接近しつつあり、南岸には梅雨前線。銚子は中層の雲に覆われ、オホーツク海高気圧からの北風が強く吹く中、空襲され大きな火災となったようです。

米軍は強風を予測、利用して空襲したんでしょうかね？